

0001 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクアセスメントの最初の手順として最も適切なものはどれか。

- ア．作業に伴う危険性・有害性を特定する。
- イ．対策費だけを計算する。
- ウ．事故発生後だけ実施する。
- エ．危険を記録せず作業開始する。

答え・解説 正答：ア

ア：危険源を特定しなければリスクを見積もれない。

イ：危険特定より先ではない。

ウ：事前予防が目的。

エ：評価できない。

総合解説：危険特定→リスク見積り→優先度設定→低減措置実施が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0002 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

リスクの見積りで考慮する基本要素はどれか。

- ア．工事費と契約金額だけ。
- イ．災害の重篤度と発生可能性。
- ウ．作業員の年齢だけ。
- エ．天気だけ。

答え・解説 正答：イ

ア：安全リスクの要素ではない。

イ：指針では負傷・疾病の重篤度と発生可能性を考慮する。

ウ：単独要素ではない。

エ：要因の一つに過ぎない。

総合解説：リスクは被害の大きさと起こりやすさの組合せで評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0003 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

高リスク作業への対策として優先すべき考え方はどれか。

- ア．保護具だけで全て対応する。
- イ．注意喚起だけで済ませる。
- ウ．危険源の除去や代替をまず検討する。
- エ．作業者の経験だけに任せる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：危険源が残る。
- イ：危険源が残る。
- ウ：保護具より上位の本質的な低減策を優先する。
- エ：再現性がない。

総合解説：リスク低減は本質的対策を優先し、管理策・保護具を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0004 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：基礎

KYTの主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．事故後の責任者を決める。
- イ．品質検査だけを行う。
- ウ．作業時間を延ばす。
- エ．作業前に潜在危険を話し合い、重点行動を共有する。

答え・解説 正答：エ

- ア：予防活動である。
- イ：安全活動である。
- ウ：目的ではない。
- エ：危険予知活動は現場の危険感受性を高める。

総合解説：KYTは作業前の危険共有と行動目標設定に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0005 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

同じ作業でも雨天後にリスク評価を見直す理由はどれか。

- ア．地盤・滑り・視界など作業条件が変化するため。
- イ．一度評価すれば永久に同じだから。
- ウ．雨天は安全性を必ず高めるから。
- エ．記録量を増やすためだけ。

答え・解説 正答：ア

ア：リスクは作業条件の変化に応じて再評価する。

イ：条件変化を無視している。

ウ：逆に悪化する場合がある。

エ：安全判断が目的。

総合解説：現場条件変更時はリスクアセスメントを更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0006 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

重機と歩行者が同じ通路を使用する作業で最も有効な対策はどれか。

- ア．歩行者に注意だけ促す。
- イ．動線を分離し、必要に応じ誘導員や物理的区画を設ける。
- ウ．重機速度を上げる。
- エ．見通しを悪くする。

答え・解説 正答：イ

ア：危険源が残る。

イ：接触可能性を構造的に低減できる。

ウ：危険性が増す。

エ：接触リスクが増す。

総合解説：人と機械の分離は接触災害防止の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0007 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスクアセスメント結果を記録する主な理由はどれか。

- ア．過去の対策を隠すため。
- イ．法令を無視するため。
- ウ．対策根拠と残留リスクを共有し、見直しに活用するため。
- エ．作業員へ知らせないため。

答え・解説 正答：ウ

ア：逆である。
イ：不適切。
ウ：記録は継続的改善と引継ぎに重要である。
エ：共有が重要。
総合解説：評価・対策・残留リスクを記録し関係者へ伝える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0008 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスク低減措置後に残留リスクが高い場合の対応はどれか。

- ア．対策したので無条件に作業する。
- イ．記録だけ削除する。
- ウ．保護具を外す。
- エ．追加対策を検討し、許容できない場合は作業方法を見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：残留リスク評価が必要。
イ：リスクは消えない。
ウ：危険が増す。
エ：対策後のリスク再評価が必要である。
総合解説：対策実施後もリスクを再見積りする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0009 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

作業手順変更時にリスクアセスメントを行う理由はどれか。

- ア．新たな危険が生じたり既存リスクが変化したりするため。
- イ．変更すれば必ず安全になるから。
- ウ．手順変更は安全と無関係だから。
- エ．作業員数だけ変わるから。

答え・解説 正答：ア

ア：作業変更は評価見直しの重要な契機である。

イ：必ずではない。

ウ：関係する。

エ：他要因も変わる。

総合解説：変更管理とリスク評価を連動させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0010 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

重大災害につながる危険の発生確率が低い場合の評価として適切なものはどれか。

- ア．確率が低ければ必ず無視できる。
- イ．重篤度が極めて高ければ優先対策が必要となり得る。
- ウ．全て軽微リスクとする。
- エ．記録不要とする。

答え・解説 正答：イ

ア：重篤度を無視している。

イ：発生可能性だけでなく重篤度も評価する。

ウ：不適切。

エ：評価記録が必要。

総合解説：低頻度・高重大性リスクも適切に扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0011 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：標準

リスク評価で作業者の意見を取り入れる利点はどれか。

- ア．管理者の責任をなくせる。
- イ．評価を省略できる。
- ウ．実作業での危険やヒヤリハットを把握しやすい。
- エ．法令を置き換えられる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：責任はなくなるしない。
 - イ：省略できない。
 - ウ：現場経験は潜在危険の発見に有用である。
 - エ：法令遵守が前提。
- 総合解説：現場情報を評価へ取り込むことで実効性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0012 4-1 安全衛生 > 危険予知・リスクアセスメント | 難易度：応用

ヒヤリハット事例を活用する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．報告者を責めて情報を減らす。
- イ．記録せず忘れる。
- ウ．重大事故だけ扱う。
- エ．原因と再発条件を分析し、類似作業のリスク評価へ反映する。

答え・解説 正答：エ

- ア：報告文化を損なう。
 - イ：改善に使えない。
 - ウ：予防情報を失う。
 - エ：事故に至らない兆候から先行的に対策できる。
- 総合解説：ヒヤリハットは事故予防の貴重なデータである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0013 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業計画を作成する際に最も重要なことはどれか。

- ア．作業方法、手順、人員、機械、安全措置を具体化する。
- イ．当日現場で全て決める。
- ウ．危険作業でも担当を決めない。
- エ．機械能力を確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：作業の実施条件を事前に明確にする。

イ：準備不足となる。

ウ：指揮命令が不明確。

エ：事故原因となる。

総合解説：作業計画は安全施工の具体的な実施基準となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0014 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業指揮者を定める主な目的はどれか。

- ア．各作業員が別々に判断するため。
- イ．作業方法と手順を統一し、関係者へ明確な指示を行うため。
- ウ．責任を曖昧にするため。
- エ．記録を減らすため。

答え・解説 正答：イ

ア：統一性を失う。

イ：危険作業では統一した指揮が重要である。

ウ：逆である。

エ：目的ではない。

総合解説：指揮命令系統を明確にして安全を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0015 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

複数業者が同一区域で作業する場合の調整として最も適切なものはどれか。

- ア．各業者に任せて調整しない。
- イ．全作業を同時開始する。
- ウ．作業時間・区域・重機動線・危険作業の干渉を事前調整する。
- エ．情報共有を禁止する。

答え・解説 正答：ウ

ア：接触・競合が生じる。

イ：危険が増す。

ウ：混在作業は相互干渉リスクが高い。

エ：不適切。

総合解説：混在作業では全体調整が不可欠である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0016 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：基礎

作業開始前ミーティングで確認すべき内容はどれか。

- ア．前日の売上だけ。
- イ．個人情報だけ。
- ウ．危険情報を伏せる。
- エ．当日の作業内容、危険箇所、役割分担、変更点を共有する。

答え・解説 正答：エ

ア：安全と無関係。

イ：不適切。

ウ：事故につながる。

エ：日々変化する現場条件を共有する。

総合解説：始業前の情報共有は安全施工の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0017 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

予定外の作業が発生した場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．危険性を評価し、必要な手順・指揮・設備を整えてから実施する。
- イ．その場の勢いで実施する。
- ウ．記録せず処理する。
- エ．保護具なしで短時間だけ行う。

答え・解説 正答：ア

ア：予定外作業はリスクが見落とされやすい。

イ：危険。

ウ：再発防止できない。

エ：短時間でも危険。

総合解説：予定外作業ほど立ち止まって評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0018 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

作業指揮者が現場を離れる場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．誰にも伝えず離れる。
- イ．作業継続可否を判断し、必要なら代行者を明確にする。
- ウ．作業員へ自由判断を任せる。
- エ．危険作業ほど無人で続ける。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：指揮が必要な作業では無指揮状態を避ける。

ウ：統制が失われる。

エ：不適切。

総合解説：指揮体制の継続性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0019 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

作業計画と現場条件が合わなくなった場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．計画を守るため危険でも続行する。
- イ．現況を無視する。
- ウ．作業を停止または見直し、計画を現況へ適合させる。
- エ．変更内容を共有しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：安全を優先する。

イ：事故原因となる。

ウ：計画は現場実態に合わせて更新する。

エ：誤作業につながる。

総合解説：計画変更は評価・承認・周知まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0020 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

合図を必要とする作業で最も適切な管理はどれか。

- ア．誰でも同時に合図する。
- イ．合図方法を毎回変える。
- ウ．運転者に推測させる。
- エ．合図方法と合図者を事前に定め、関係者で統一する。

答え・解説 正答：エ

ア：混乱する。

イ：誤解を招く。

ウ：危険。

エ：複数の合図が混在すると誤操作の原因となる。

総合解説：合図の標準化は機械作業の安全に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0021 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：応用

作業中に危険な状態を発見した場合の方針として適切なのはどれか。

- ア．停止・報告できるルールを明確にし、危険除去後に再開する。
- イ．作業を止めた者を必ず処分する。
- ウ．危険でも工程優先とする。
- エ．報告を禁止する。

答え・解説 正答：ア

ア：危険を感じても止められない現場は重大事故を招きやすい。

イ：報告を阻害する。

ウ：不適切。

エ：危険。

総合解説：安全のため作業停止できる仕組みが必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0022 4-1 安全衛生 > 作業計画・指揮 | 難易度：標準

日々の作業指示を記録する意義はどれか。

- ア．口頭指示があれば記録不要。
- イ．変更内容や安全上の注意を追跡し、引継ぎや再発防止に活用できる。
- ウ．事故後に記憶だけで再現する。
- エ．変更履歴を削除する。

答え・解説 正答：イ

ア：後から確認できない。

イ：記録は安全管理の継続性に寄与する。

ウ：客観性が低い。

エ：不適切。

総合解説：安全指示の記録はトレーサビリティを高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0023 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護帽の使用で最も適切なのはどれか。

- ア．サイズが合わなくてもよい。
- イ．あごひもを常に外す。
- ウ．危険に応じた適切な保護帽を正しく着用する。
- エ．損傷品を使い続ける。

答え・解説 正答：ウ

ア：脱落等の危険。
イ：適切な着用でない。
ウ：飛来・落下物等の危険に適合した保護具が必要である。
エ：性能低下。
総合解説：保護具は選定・着用・点検まで含めて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0024 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

墜落制止用器具を使用する際に必要なことはどれか。

- ア．どこにでも自由に掛ける。
- イ．損傷したランヤードを使用する。
- ウ．取付位置を確認しない。
- エ．適切な取付設備を確保し、器具と取付設備を点検する。

答え・解説 正答：エ

ア：強度不足の可能性。
イ：危険。
ウ：落下距離に影響する。
エ：器具だけでなくアンカー等の取付設備も重要である。
総合解説：墜落制止用器具はシステム全体で安全性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0025 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護メガネを使用すべき作業として最も適切なのはどれか。

- ア．切断・研削等で飛散物が眼に入るおそれがある作業。
- イ．事務所で書類整理だけをする作業。
- ウ．休憩中。
- エ．危険物のない通路歩行だけ。

答え・解説 正答：ア

ア：飛来物から眼を保護する必要がある。

イ：通常不要。

ウ：対象外。

エ：通常不要。

総合解説：作業危険に応じて保護具を選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0026 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

騒音の大きい作業で耳栓等を使用する場合の考え方として適切なのはどれか。

- ア．耳栓をすれば騒音源対策は不要。
- イ．騒音レベルや作業条件に応じた聴覚保護具を選び、必要な管理と併用する。
- ウ．全員同じサイズでよい。
- エ．損傷品を使い続ける。

答え・解説 正答：イ

ア：上位対策も必要。

イ：保護具だけでなく騒音源対策等も重要である。

ウ：適合性が必要。

エ：性能低下。

総合解説：保護具はリスク低減の一部として用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0027 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

立入禁止区域を設定する主な目的はどれか。

- ア．作業者を迷わせるため。
- イ．資材置場を広く見せるため。
- ウ．危険源に関係のない者が接近するのを防ぐため。
- エ．危険表示を不要にするため。

答え・解説 正答：ウ

ア：逆である。

イ：目的ではない。

ウ：危険区域への不要な立入りを防止する。

エ：表示等も必要。

総合解説：危険区域は明確に区画・表示する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0028 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：標準

重機旋回範囲の立入管理として最も適切なのはどれか。

- ア．作業員の注意だけに任せる。
- イ．旋回範囲を通路にする。
- ウ．標識を外す。
- エ．バリケードや監視等で不要な立入りを防止する。

答え・解説 正答：エ

ア：構造的対策が望ましい。

イ：危険。

ウ：不適切。

エ：旋回部との接触・挟まれを防ぐ。

総合解説：機械稼働範囲と人の動線を分離する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0029 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：基礎

保護具の点検で異常が見つかった場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．使用を中止し、交換・修理等の適切な処置を行う。
- イ．短時間なら使用する。
- ウ．異常を隠す。
- エ．他人へ回す。

答え・解説 正答：ア

ア：保護性能が保証できない器具は使用しない。

イ：危険。

ウ：不適切。

エ：危険を移すだけ。

総合解説：保護具は使用前点検と不良品排除が基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0030 4-1 安全衛生 > 保護具・立入管理 | 難易度：応用

立入禁止措置を一時解除する必要がある場合、最も適切なのはどれか。

- ア．何の対策もなく解除する。
- イ．危険作業を停止するなど代替安全措施を講じ、解除範囲と時間を管理する。
- ウ．解除を周知しない。
- エ．作業中ずっと無管理にする。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：解除時にリスクが増えないよう管理する。

ウ：混乱する。

エ：不適切。

総合解説：立入管理の変更時は代替措置と周知が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0031 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の箇所で墜落のおそれがある作業を行う場合の原則として正しいものはどれか。

- ア．保護帽だけで作業床を省略できる。
- イ．経験者なら無対策でよい。
- ウ．足場を組み立てる等により作業床を設ける。
- エ．2m以上でも囲い等は不要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：墜落防止措置として不十分。

イ：経験により義務はなくなる。

ウ：労働安全衛生規則第518条は、高さ2m以上で墜落危険がある場合の作業床設置を原則としている。

エ：危険箇所には措置が必要。

総合解説：高所作業ではまず作業床等による墜落そのものの防止を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0032 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の作業床の端や開口部で墜落のおそれがある箇所に必要な措置はどれか。

- ア．注意札だけを置く。
- イ．開口部を広げる。
- ウ．夜間だけ無対策とする。
- エ．囲い、手すり、覆い等を設ける。

答え・解説 正答：エ

ア：物理的防護が原則。

イ：危険が増す。

ウ：時間帯に関係なく必要。

エ：安衛則第519条に基づく基本的な墜落防止措置である。

総合解説：開口部・端部では物理的な墜落防止設備を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0033 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

作業床の設置が困難な高さ2m以上の作業で最も適切な措置はどれか。

- ア．防網や要求性能墜落制止用器具の使用等、墜落危険防止措置を講じる。
- イ．何もせず短時間だけ作業する。
- ウ．地上監視だけでよい。
- エ．作業者の自己判断に任せる。

答え・解説 正答：ア

ア：作業床が困難な場合には代替墜落防止措置が必要である。

イ：短時間でも危険。

ウ：墜落を防げない。

エ：事業者の措置が必要。

総合解説：作業床を設けられない場合も墜落防止措置を欠かせない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0034 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

要求性能墜落制止用器具を使用させる場合、事業者が行うべきことはどれか。

- ア．取付設備の強度は確認しない。
- イ．安全に取り付けるための設備を設け、器具と取付設備を随時点検する。
- ウ．器具だけ点検し取付設備は見ない。
- エ．作業後だけ初めて点検する。

答え・解説 正答：イ

ア：安全性を確保できない。

イ：安衛則第521条の考え方である。

ウ：双方の点検が必要。

エ：使用中も異常確認が必要。

総合解説：墜落制止用器具は取付設備と一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0035 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

高さ2m以上の高所作業で強風・大雨・大雪等により危険が予想される場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．工程優先で継続する。
- イ．保護帽だけ追加して継続する。
- ウ．当該作業を行わせない。
- エ．作業速度を上げて早く終える。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険。

イ：墜落リスクを解消できない。

ウ：安衛則第522条は悪天候時に危険が予想される高所作業を禁止している。

エ：危険を増す。

総合解説：悪天候時は作業中止を含む判断を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0036 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の作業床について、床材間の隙間として現行規則上適切なのはどれか。

- ア．床材間を10cm以下とし、工具が落ちなければよいとする。
- イ．床材間を20cm以下とし、作業者が注意すればよいとする。
- ウ．隙間寸法は規定せず、現場ごとに自由に決める。
- エ．床材間の隙間は3cm以下となるよう設置する。

答え・解説 正答：エ

ア：誤り。現行基準を超える。

イ：誤り。現行基準を大きく超える。

ウ：誤り。床材間の隙間には規定がある。

エ：正しい。安衛則の足場基準では床材間の隙間を3cm以下とする。

総合解説：足場の床材は隙間や支持状態を基準に従って施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0037 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場の床材と建地との隙間として現行規則上適切なのはどれか。

- ア．床材と建地との隙間を12cm未満とする。
- イ．30cm未満なら足場の種類に関係なく適合とする。
- ウ．50cm未満であれば墜落防止上問題ないとする。
- エ．床材と建地との隙間は作業者の判断で自由に決める。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。現行の足場基準で12cm未満とされる。

イ：誤り。基準を超える。

ウ：誤り。基準を超え、墜落等の危険が高まる。

エ：誤り。規定があるため自由設定ではない。

総合解説：足場作業床の寸法基準は墜落・物体落下防止に係る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0038 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

足場設置場所に十分な幅がある場合の現行の安全対策として最も適切な考え方はどれか。

- ア．広いほど一側足場だけを使う。
- イ．原則として本足場を使用し、一側足場の使用を避ける。
- ウ．足場形式は安全性と無関係である。
- エ．作業床を設けない。

答え・解説 正答：イ

ア：現行の考え方と逆。

イ：幅1m以上の箇所での一側足場の原則禁止を含む現行対策が推進されている。

ウ：関係する。

エ：不適切。

総合解説：足場形式は設置スペースと安全性を踏まえて選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0039 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

足場の部材に著しい腐食や変形を発見した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．荷重を増やして確認する。
- イ．見えない位置に移して使う。
- ウ．使用を停止し、不良部材を交換・補修して安全を確認する。
- エ．記録せず使用継続する。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険。
イ：危険を残す。
ウ：損傷部材は足場強度を低下させる。
エ：不適切。
総合解説：足場部材は組立て前・使用中に状態を点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0040 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

強風・大雨・大雪や中震以上の地震の後の足場管理として適切なのはどれか。

- ア．異常が見えなければ点検不要。
- イ．作業終了後だけ点検する。
- ウ．足場下だけ確認する。
- エ．作業再開前に必要な点検を行い、異常を是正する。

答え・解説 正答：エ

ア：規定に基づく点検が必要。
イ：再開前の確認が重要。
ウ：全体の状態を確認する。
エ：悪天候・地震後は足場の変位や部材異常を確認する必要がある。
総合解説：外力を受けた足場は再使用前に安全性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0041 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：基礎

脚立を用いた作業で最も適切なものはどれか。

- ア．設置場所を安定させ、滑り・転倒を防ぎ、無理な姿勢で作業しない。
- イ．天板にまたがって無理に身を乗り出す。
- ウ．傾斜面に不安定に設置する。
- エ．損傷した脚立を使う。

答え・解説 正答：ア

ア：簡易な昇降用具でも転落・転倒リスクがある。

イ：転倒リスクが高い。

ウ：危険。

エ：危険。

総合解説：脚立・はしご作業では安定設置と正しい使用が重要。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0042 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

高所作業で資材や工具の落下による危険を防止する方法として適切なものはどれか。

- ア．工具を足場端へ積む。
- イ．幅木、落下防止措置、工具の保持等を必要に応じて講じる。
- ウ．下部の立入管理を行わない。
- エ．資材を手すり上へ置く。

答え・解説 正答：イ

ア：落下しやすい。

イ：墜落防止だけでなく飛来落下防止も必要である。

ウ：第三者・作業員へ危険。

エ：落下リスクが高い。

総合解説：高所作業は人の墜落と物体落下の双方を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0043 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：標準

足場上で資材を仮置きする場合、最も適切なものはどれか。

- ア．空いている場所へ無制限に積む。
- イ．通路を塞いで積む。
- ウ．許容荷重を確認し、偏荷重や通路妨害が生じないよう管理する。
- エ．片側だけに集中して積む。

答え・解説 正答：ウ

ア：許容荷重を超える可能性。

イ：避難・作業を妨げる。

ウ：過積載や偏荷重は足場の不安定化を招く。

エ：偏荷重となる。

総合解説：足場上の荷重は構造安全と作業性を考えて管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0044 4-2 墜落・崩壊防止 > 足場・高所 | 難易度：応用

高所作業の墜落防止対策を検討する際、最も優先すべき考え方はどれか。

- ア．最初から墜落制止用器具だけに依存する。
- イ．注意力だけで対応する。
- ウ．作業速度を上げる。
- エ．作業床・手すり等で墜落自体を防ぎ、必要に応じ墜落制止用器具を併用する。

答え・解説 正答：エ

ア：設備対策を検討すべき。

イ：不十分。

ウ：安全対策ではない。

エ：個人用保護具だけに依存せず、設備的対策を優先する。

総合解説：墜落防止は設備的対策を基本とし、補完策を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0045 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

明り掘削の作業開始前に地山について確認すべき事項はどれか。

- ア．浮石、き裂、含水、湧水等の状態を点検する。
- イ．地山の色だけを見る。
- ウ．作業終了後だけ見る。
- エ．掘削機械だけ点検する。

答え・解説 正答：ア

ア：安衛則第358条に基づき地山崩壊・落石の兆候を確認する。

イ：不十分。

ウ：開始前点検が必要。

エ：地山も必要。

総合解説：掘削では地山状態の変化を継続確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0046 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

明り掘削で大雨の後に最も適切な対応はどれか。

- ア．降雨量に関係なく直ちに再開する。
- イ．作業再開前に地山のき裂、含水、湧水等の変化を点検する。
- ウ．掘削深さだけ測る。
- エ．点検者を決めない。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：大雨後は崩壊リスクが高まるため再点検が必要である。

ウ：地山変化を確認できない。

エ：点検管理が必要。

総合解説：天候・地震後は地山状態を再確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0047 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

中震以上の地震後の明り掘削で適切な措置はどれか。

- ア．点検せず重機で押さえる。
- イ．地震は掘削に影響しないとする。
- ウ．作業再開前に地山の異常を点検する。
- エ．翌週まで点検しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険。
イ：き裂等が生じ得る。
ウ：安衛則は中震以上の地震後の点検を求めている。
エ：再開前に必要。
総合解説：地震後は崩壊兆候を確認してから作業を再開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0048 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削上端付近に掘削土を大量に積むことの問題はどれか。

- ア．必ず地山を安定させる。
- イ．掘削深さと無関係である。
- ウ．湧水を減らす効果だけがある。
- エ．上載荷重が増え、地山崩壊の危険を高めることがある。

答え・解説 正答：エ

ア：逆の場合がある。
イ：安定に影響。
ウ：目的ではない。
エ：掘削端部の荷重は斜面・土留め安定に影響する。
総合解説：掘削端部では重機・残土等の上載荷重を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0049 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：基礎

土止め支保工を設置する主な目的はどれか。

- ア．掘削側面の崩壊を防ぎ、作業空間の安全を確保する。
- イ．掘削を深く見せるため。
- ウ．地下水を必ず完全に止めるため。
- エ．残土量を増やすため。

答え・解説 正答：ア

- ア：掘削条件に応じて土圧等へ抵抗する仮設構造物である。
- イ：目的ではない。
- ウ：止水は別機能。
- エ：目的ではない。

総合解説：土止めは地盤条件・掘削深さ・周辺条件に応じて計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0050 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工の点検で確認すべき事項として適切なのはどれか。

- ア．塗装色だけ確認する。
- イ．部材の損傷・変形・腐食・変位、切りばりの緊圧、接統部等を確認する。
- ウ．地上の標識だけ見る。
- エ．切りばりは確認しない。

答え・解説 正答：イ

- ア：不十分。
- イ：安衛則第373条等に基づく主要点検項目である。
- ウ：構造部材点検が必要。
- エ：重要な点検対象。

総合解説：土止め支保工は部材と接合部の状態を継続点検する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0051 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

土止め支保工作業主任者の職務として適切なのはどれか。

- ア．工事費の査定だけを行う。
- イ．作業員へ自由判断を任せる。
- ウ．作業方法を決定し、作業を直接指揮する。
- エ．保護具の使用状況を見ない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：職務ではない。
- イ：直接指揮が必要。
- ウ：安衛則第375条に定める職務の一つである。
- エ：監視職務がある。

総合解説：作業主任者は方法決定・直接指揮・器具点検・保護具監視等を担う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0052 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

掘削底に湧水が増加した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．そのまま掘削速度を上げる。
- イ．水を土止め背面へ戻す。
- ウ．記録せず放置する。
- エ．湧水量と地盤状態を確認し、排水・土止め・掘削方法を見直す。

答え・解説 正答：エ

- ア：危険。
 - イ：圧力増加の可能性。
 - ウ：変化管理が必要。
 - エ：湧水増加は崩壊・ボイリング等の兆候となり得る。
- 総合解説：掘削中の水条件変化は重大な安全情報である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0053 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：標準

掘削溝へ作業員が出入りするための措置として最も適切なのはどれか。

ア．安全な昇降設備を設け、崩壊や転落の危険がない経路を確保する。

イ．掘削法面を自由に登る。

ウ．重機バケットへ乗る。

エ．昇降路を資材で塞ぐ。

答え・解説 正答：ア

ア：掘削部への出入りも安全計画が必要である。

イ：転落・崩壊の危険。

ウ：不適切。

エ：避難を妨げる。

総合解説：掘削作業では安全な昇降・避難経路を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0054 4-2 墜落・崩壊防止 > 掘削・土止め | 難易度：応用

掘削計画と実際の土質が異なることが判明した場合、最も適切な対応はどれか。

ア．当初計画を無条件で継続する。

イ．作業を必要に応じ停止し、法面勾配や土止め等の安全条件を再評価する。

ウ．土質差を記録しない。

エ．作業員の経験だけに任せる。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：地盤条件の相違は崩壊リスクへ直結する。

ウ：不適切。

エ：再評価が必要。

総合解説：掘削安全計画は実際の地盤条件に適合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0055 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

移動式クレーンで作業する際の基本として最も適切なのはどれか。

- ア．荷重だけ見て作業半径を無視する。
- イ．軟弱地盤でも無対策とする。
- ウ．吊荷重量、作業半径、定格荷重、地盤状態を確認する。
- エ．安全装置を解除する。

答え・解説 正答：ウ

ア：定格荷重は半径等で変わる。

イ：転倒リスク。

ウ：クレーン能力と支持条件を超えない計画が必要である。

エ：危険。

総合解説：揚重作業は機械能力と設置条件を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0056 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

移動式クレーンのアウトリガー設置で最も適切なのはどれか。

- ア．側溝蓋の上へ無確認で設置する。
- イ．片側だけ不安定に設置する。
- ウ．地盤状態は能力に影響しない。
- エ．地盤支持力を確認し、必要に応じ敷板等で反力を安全に支持する。

答え・解説 正答：エ

ア：破損・沈下の危険。

イ：転倒リスク。

ウ：影響する。

エ：局部沈下はクレーン転倒につながる。

総合解説：アウトリガー反力を安全に地盤へ伝える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0057 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

玉掛け作業で最も適切なものはどれか。

- ア．吊荷の重量・形状・重心に応じて適切な玉掛用具と掛け方を選ぶ。
- イ．重量不明でも細いワイヤを使う。
- ウ．重心を確認しない。
- エ．損傷したワイヤを使用する。

答え・解説 正答：ア

ア：荷の安定と用具強度を確保する。

イ：強度不足の可能性。

ウ：荷が傾く。

エ：破断危険。

総合解説：玉掛けは荷重・重心・用具状態を確認して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0058 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

つり上げ荷重1t未満のクレーン等の玉掛け業務に必要な教育として正しいものはどれか。

- ア．教育は一切不要である。
- イ．安全のための特別教育が必要である。
- ウ．医師免許が必要である。
- エ．施工管理技士資格だけで足りる。

答え・解説 正答：イ

ア：必要である。

イ：クレーン等安全規則第222条に定められている。

ウ：関係ない。

エ：玉掛け業務の教育要件とは別。

総合解説：玉掛け業務はつり上げ荷重等に応じた資格・教育要件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0059 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：基礎

クレーン作業の合図として最も適切な管理はどれか。

- ア．複数人が同時に異なる合図を出す。
- イ．合図を毎回変更する。
- ウ．合図者と合図方法を定め、運転者と関係者で統一する。
- エ．運転者が推測する。

答え・解説 正答：ウ

ア：混乱する。
イ：誤解を招く。
ウ：誤合図は吊荷事故につながる。
エ：危険。
総合解説：揚重作業では明確な合図系統を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0060 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：標準

吊荷の下への立入管理として適切なのはどれか。

- ア．短時間なら真下へ入る。
- イ．保護帽があれば真下でよい。
- ウ．吊荷を人の頭上で移動する。
- エ．吊荷落下の危険範囲へ作業員等を立ち入らせない。

答え・解説 正答：エ

ア：危険。
イ：重量物落下は防げない。
ウ：避けるべき。
エ：吊荷の落下・振れによる災害を防止する。
総合解説：吊荷の下・旋回範囲は立入を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0061 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

強風で吊荷が大きく振れる状況で最も適切な対応はどれか。

- ア．風の状況と規則・作業基準に基づき、危険があれば作業を中止する。
- イ．作業速度を上げる。
- ウ．長い吊荷ほどそのまま続ける。
- エ．警報を無視する。

答え・解説 正答：ア

ア：強風時は吊荷制御が困難となり転倒等の危険も高まる。

イ：危険。

ウ：風荷重が増える。

エ：不適切。

総合解説：気象条件が揚重安全へ与える影響を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0062 4-2 墜落・崩壊防止 > 揚重・クレーン | 難易度：応用

吊荷が予定より重いことが判明した場合の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．少しならそのまま吊る。
- イ．作業を止め、実重量と定格荷重・作業半径を再確認して計画を見直す。
- ウ．安全装置を解除する。
- エ．作業半径をさらに大きくする。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：定格能力超過は重大事故につながる。

ウ：不適切。

エ：能力が低下することが多い。

総合解説：荷重条件が変わった場合は揚重計画を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0063 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

建設工事における公衆災害防止の対象として最も適切なものはどれか。

- ア．工事関係者の労務管理だけを対象とする。
- イ．完成後の景観だけを対象とする。
- ウ．工事関係者以外の第三者の生命・身体・財産への危害や迷惑を防止する。
- エ．工事費だけを対象とする。

答え・解説 正答：ウ

ア：公衆災害防止の対象と異なる。

イ：安全施工が主眼。

ウ：国交省要綱は公衆に対する危害・迷惑の防止を目的としている。

エ：目的ではない。

総合解説：第三者災害防止は現場外への影響まで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0064 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

供用中の公園で工事区域を区画する際、最も適切なものはどれか。

- ア．境界を表示しない。
- イ．子どもが通る場所でも開放する。
- ウ．資材で無秩序に塞ぐだけにする。
- エ．利用者が誤って進入しないよう仮囲い・バリケード・表示等を設ける。

答え・解説 正答：エ

ア：誤進入の危険。

イ：危険。

ウ：安全な区画とはいえない。

エ：工事区域と公衆利用区域を明確に分離する。

総合解説：工事区域の明確な区分は第三者災害防止の基本。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0065 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事現場出入口で公衆災害を防ぐ措置として最も適切なのはどれか。

- ア．車両出入り時の見通しを確保し、必要に応じ誘導員等を配置する。
- イ．車両が優先として歩行者を止めず進入する。
- ウ．出入口前へ資材を積み視界を遮る。
- エ．誘導員と運転者の合図を決めない。

答え・解説 正答：ア

ア：歩行者・自転車・一般車との接触防止が重要。

イ：危険。

ウ：事故リスクが高まる。

エ：誤操作につながる。

総合解説：出入口は第三者と工事車両が交錯する重点管理箇所である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0066 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事区域から資材が公道へ飛散するおそれがある場合、最も適切な対策はどれか。

- ア．風が弱ければ固定しない。
- イ．飛散防止ネット・覆い・固定等を行い、必要に応じ道路清掃も実施する。
- ウ．飛散した土砂を放置する。
- エ．軽量材を囲い外へ積む。

答え・解説 正答：イ

ア：突風等で飛散し得る。

イ：工事由来の物体・土砂が公衆へ危害を及ぼさないよう管理する。

ウ：交通事故等の原因。

エ：危険。

総合解説：現場内資材も現場外への飛散・流出を防止する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0067 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事による騒音や振動について第三者対策として最も適切なのはどれか。

ア．近隣へ一切周知しない。

イ．規制や時間帯を確認しない。

ウ．周辺条件を把握し、低騒音機械・施工時間・防音措置・周知等を組み合わせる。

エ．騒音源を住宅側へ近づける。

答え・解説 正答：ウ

ア：トラブル予防にならない。

イ：不適切。

ウ：迷惑防止も公衆災害防止の重要な要素である。

エ：影響が増す。

総合解説：公衆への迷惑も施工計画段階から低減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0068 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事区域内に大きな開口部がある場合の第三者対策として適切なのはどれか。

ア．注意表示だけで開口部を放置する。

イ．夜間は見えないので対策しない。

ウ．子どもが入れる隙間を残す。

エ．堅固な覆い・囲い等を設け、一般利用者が近づかないよう管理する。

答え・解説 正答：エ

ア：物理的防護が不足。

イ：むしろ危険が増す。

ウ：危険。

エ：転落・転倒を防ぐため物理的防護が必要。

総合解説：公衆が接近可能な危険箇所は確実に防護する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0069 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

公園工事で利用者通路を一時変更する場合、最も適切なものはどれか。

- ア．安全な代替通路を確保し、分かりやすい案内を設置する。
- イ．通路を突然閉鎖し案内しない。
- ウ．代替路を車両動線と完全共用する。
- エ．段差や夜間照明を確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：工事による動線変更で迷いや危険が生じないようにする。

イ：混乱する。

ウ：接触リスクが高い。

エ：転倒リスク。

総合解説：第三者動線の変更は安全・案内・バリアフリーにも配慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0070 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事現場近くに学校があり登下校時間帯の歩行者が多い場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．学校の実在を考慮しない。
- イ．登下校時間を把握し、搬入時間調整や誘導員配置等で交錯を抑える。
- ウ．登校時間に大型車を集中させる。
- エ．歩行者優先動線を設けない。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：時間帯別の第三者利用を施工計画へ反映する。

ウ：交錯が増える。

エ：事故リスクが高い。

総合解説：第三者災害防止では周辺施設の利用特性を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0071 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：標準

工事中の仮囲いが強風で傾いた場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．そのまま放置する。
- イ．内側から見えなければ問題ないとする。
- ウ．周辺を立入制限し、速やかに安定性を確認・補修する。
- エ．固定材を外す。

答え・解説 正答：ウ

- ア：危険。
- イ：外部へ倒れるおそれ。
- ウ：倒壊による公衆災害を防ぐため初動が重要。
- エ：さらに不安定になる。

総合解説：仮設物も供用中に継続点検し、異常時は直ちに措置する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0072 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

工事事故が第三者へ影響した場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．事故記録を消す。
- イ．現場だけで隠して処理する。
- ウ．二次災害を無視して救護へ入る。
- エ．人命確保を最優先し、二次災害防止、関係機関への連絡、原因調査を行う。

答え・解説 正答：エ

- ア：不適切。
- イ：関係機関対応が必要。
- ウ：救護者の安全も必要。
- エ：事故時は救護と影響拡大防止を優先する。

総合解説：事故時対応は救護・二次災害防止・連絡・記録を一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0073 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：基礎

工事区域周辺で夜間に第三者が危険箇所を認識できるようにする対策はどれか。

- ア．保安灯・照明・反射材等で危険箇所や通路を明示する。
- イ．照明を全て消す。
- ウ．黒色表示だけにする。
- エ．通路端を無表示にする。

答え・解説 正答：ア

ア：夜間は視認性低下を補う必要がある。

イ：危険箇所が見えない。

ウ：視認性が低い。

エ：転落等の危険。

総合解説：昼夜の視認性を考慮して安全施設を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0074 4-3 公衆災害防止 > 第三者災害 | 難易度：応用

第三者災害防止対策を施工途中で見直すべき場合として最も適切なのはどれか。

- ア．着工時に決めたら変更しない。
- イ．工事区域や利用者動線、周辺条件が変化したとき。
- ウ．事故が起きるまで見直さない。
- エ．工事区域拡大を周知しない。

答え・解説 正答：イ

ア：実態と合わなくなる。

イ：工事進捗に伴い公衆との接点も変化する。

ウ：予防にならない。

エ：危険。

総合解説：公衆災害防止対策は工程進捗に応じて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0075 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

道路上や道路に近接して工事する際、最初に確認すべきこととして最も適切なのはどれか。

- ア．施工者判断だけで車線を閉鎖する。
- イ．交通量を確認しない。
- ウ．道路管理者・警察等との必要な協議や許可、交通条件を確認する。
- エ．標識計画を作らない。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。
イ：安全計画に必要。
ウ：道路占用・使用等は工事内容に応じた手続と安全計画が必要。
エ：交通事故につながる。
総合解説：道路工事は関係機関との調整と交通安全計画が前提。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0076 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

車線規制を行う際の交通誘導として最も適切なのはどれか。

- ア．規制直前だけに標識を置く。
- イ．標識を工事車両で隠す。
- ウ．誘導方法を時間ごとに無秩序に変える。
- エ．道路利用者が十分手前から規制を認識できる標識・保安施設・誘導を配置する。

答え・解説 正答：エ

ア：対応時間が不足。
イ：認識できない。
ウ：混乱する。
エ：急な進路変更を避けるため予告と連続誘導が重要。
総合解説：交通規制は予告・誘導・現場通過を連続的に計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0077 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

歩行者通路を工事で狭める場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．安全な幅員・路面・防護・案内を確保し、必要に応じ代替通路を設ける。
- イ．資材を通路へはみ出して置く。
- ウ．段差を放置する。
- エ．車両通路と無区画で共用する。

答え・解説 正答：ア

ア：歩行者を車道側へ不用意に追い出さないことが重要。

イ：危険。

ウ：転倒リスク。

エ：接触リスク。

総合解説：工事中も歩行者の安全な通行を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0078 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事用車両が公道へ泥を持ち出した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．自然に乾くまで放置する。
- イ．路面を速やかに清掃し、必要に応じ洗車設備等で再発を防止する。
- ウ．さらに土を撒く。
- エ．標識だけ置いて清掃しない。

答え・解説 正答：イ

ア：事故原因。

イ：泥・土砂はスリップ等の交通危険となる。

ウ：危険が増す。

エ：根本対策にならない。

総合解説：道路の安全な路面状態を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0079 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

工事車両の出入口で死角が大きい場合、最も適切な対策はどれか。

- ア．死角側へ速度を上げて出る。
- イ．歩行者へ全責任を負わせる。
- ウ．ミラー・誘導員・出入口配置見直し等により安全確認を補助する。
- エ．視界をさらに遮る。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険。
イ：不適切。
ウ：運転者だけでは確認できない死角を対策する。
エ：危険が増す。
総合解説：見通し不良箇所は設備・人・運用で補完する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0080 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

片側交互通行を行う場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．双方が同時に進入させる。
- イ．合図方法を決めない。
- ウ．通信不能でも継続する。
- エ．両方向の誘導員等が確実に連携し、同時進入を防ぐ。

答え・解説 正答：エ

ア：衝突リスク。
イ：混乱する。
ウ：安全確保できない。
エ：対向車の衝突防止には統一した通行管理が必要。
総合解説：片側交互通行では両端の情報連携が重要。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0081 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：基礎

夜間の道路規制で重要な対策はどれか。

- ア．標識・保安灯・反射材等の視認性を確保し、眩惑にも配慮する。
- イ．照明を消す。
- ウ．保安施設を黒く塗る。
- エ．車線内に無灯火資材を置く。

答え・解説 正答：ア

ア：夜間は規制設備の発見距離が短くなりやすい。

イ：危険。

ウ：視認性低下。

エ：衝突リスク。

総合解説：夜間規制は視認性と誘導性を強化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0082 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：標準

道路上の仮設覆工や段差を設ける場合、最も適切な管理はどれか。

- ア．段差が大きのまま放置する。
- イ．車両・歩行者が安全に通行できる平坦性、滑り、固定状態を維持する。
- ウ．固定状態を点検しない。
- エ．雨天時の滑りを考慮しない。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：路面の不陸や覆工板の移動は交通事故につながる。

ウ：移動・がたつきの危険。

エ：事故原因。

総合解説：仮設路面も供用中の交通安全性能を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0083 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

工事による迂回路を設定する際、最も適切なのはどれか。

- ア．狭く危険な道路へ無案内で誘導する。
- イ．迂回表示を途中でなくす。
- ウ．迂回経路の安全性・交通容量を確認し、分かりやすく案内する。
- エ．大型車通行可否を確認しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：公衆災害につながる。

イ：迷走する。

ウ：単に通行止めにするだけでなく代替経路を管理する。

エ：交通障害の可能性。

総合解説：迂回路は安全性と案内連続性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0084 4-3 公衆災害防止 > 交通・道路使用 | 難易度：応用

交通規制中に渋滞が想定以上に延びた場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．当初計画だから変更しない。
- イ．誘導員を減らす。
- ウ．渋滞情報を無視する。
- エ．交通状況を確認し、関係機関と連携して規制方法や作業時間を見直す。

答え・解説 正答：エ

ア：影響が拡大する。

イ：安全性低下。

ウ：公衆への影響を見落とす。

エ：実際の交通影響に応じて計画を更新する。

総合解説：交通対策も実績を監視し柔軟に改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0085 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

地下埋設物に近接して掘削する前の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．管理者資料等で位置を確認し、必要に応じ試掘・立会等で現地確認する。
- イ．図面を見ず掘削する。
- ウ．不明管を発見しても無視する。
- エ．埋設物位置を作業員へ知らせない。

答え・解説 正答：ア

ア：図面情報と現況を照合して損傷リスクを下げる。

イ：損傷事故の危険。

ウ：危険。

エ：誤掘削につながる。

総合解説：埋設物は事前確認・現地確認・周知を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0086 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

地下埋設物を試掘で確認した後の管理として最も適切なのはどれか。

- ア．確認後に位置情報を捨てる。
- イ．位置・深さ・種類を記録し、現場で分かるよう表示して関係者へ周知する。
- ウ．一部担当者だけが記憶する。
- エ．埋戻して表示しない。

答え・解説 正答：イ

ア：再度誤掘削する可能性。

イ：確認情報を施工中に利用できる状態にする。

ウ：共有不足。

エ：位置が不明になる。

総合解説：埋設物情報は施工チーム全体で共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0087 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

埋設管に近接して機械掘削する場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．位置不明でもバケットで探す。
- イ．管種に関係なく直接接触させる。
- ウ．管理者との協議や確認結果に基づき、必要な離隔・手掘り等の保護方法を採用する。
- エ．協議内容を作業員へ伝えない。

答え・解説 正答：ウ

ア：損傷の危険。

イ：危険。

ウ：重要埋設物近傍では機械接触を防止する施工方法が必要。

エ：誤作業につながる。

総合解説：埋設物近接作業は確認済み条件に基づき慎重に施工する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0088 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

掘削中に図面にない地下管を発見した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．不要管と判断して切断する。
- イ．土で隠して続行する。
- ウ．写真だけ撮って接触する。
- エ．周辺作業を止め、管の種類・管理者・安全性を確認してから再開する。

答え・解説 正答：エ

ア：重大事故の危険。

イ：危険を残す。

ウ：確認にならない。

エ：未知埋設物は重大リスクとして扱う。

総合解説：未知条件発見時は停止・確認・協議を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0089 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

架空線に近接してクレーン等を使用する場合、最も適切な措置はどれか。

- ア．線の位置を明示し、必要な離隔・絶縁防護・監視・機械動作制限等を講じる。
- イ．運転者の感覚だけに任せる。
- ウ．ブームを線に近づけて確認する。
- エ．線が存在を作業員へ知らせない。

答え・解説 正答：ア

ア：国交省要綱解説ではマーキング、ストッパー、絶縁材、誘導等の措置が示される。

イ：不十分。

ウ：感電・損傷の危険。

エ：事故につながる。

総合解説：架空線近接作業は位置明示と物理的・管理的防護を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0090 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

高圧電線等の重要な架線に近接する作業で追加的に有効な対策はどれか。

- ア．線を見えなくする。
- イ．接近を検知するセンサー等の技術活用を検討する。
- ウ．安全装置を解除する。
- エ．作業半径を無制限にする。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：国交省要綱解説では高圧電線等への近接時に検知技術活用が推奨されている。

ウ：不適切。

エ：接触リスクが増す。

総合解説：重要架線近接では技術的な接近防止策も活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0091 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：標準

架空線の高さが低く大型車両の搬入に干渉する場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．荷台を上げたまま通過する。
- イ．架線を車両で押し上げる。
- ウ．管理者と協議し、車両変更・経路変更・防護等の安全な方法を決める。
- エ．高さ確認を省略する。

答え・解説 正答：ウ

ア：危険。
イ：重大事故。
ウ：無理な通過は架線損傷や感電を招く。
エ：接触リスク。
総合解説：搬入計画でも架空線条件を事前確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0092 4-3 公衆災害防止 > 地下埋設物・架空線 | 難易度：応用

地下埋設物や架空線を誤って損傷した場合の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．すぐ自分で触って修理する。
- イ．事故を隠して施工を続ける。
- ウ．第三者を近づけて確認させる。
- エ．作業を停止し、周辺を安全確保して管理者・関係機関へ連絡し、二次災害を防ぐ。

答え・解説 正答：エ

ア：感電・漏洩等の危険。
イ：被害拡大。
ウ：危険。
エ：電気・ガス・通信等では二次災害の可能性がある。
総合解説：ライフライン損傷時は停止・退避・連絡・二次災害防止を優先する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0093 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

特定建設作業の騒音規制で、敷地境界線における基準として正しいものはどれか。

- ア．敷地境界で85dBを超えないよう管理し、時間帯等の規制も併せて確認する。
- イ．住居系環境基準の55dBを特定建設作業の一律基準として適用する。
- ウ．100dBまでは工事騒音として無条件に許容されると判断する。
- エ．特定建設作業には敷地境界の数値基準が存在しないと判断する。

答え・解説 正答：ア

ア：正しい。特定建設作業の騒音は敷地境界で85dBを超えないことが基準である。

イ：誤り。55dBは当該特定建設作業の一律基準ではない。

ウ：誤り。85dB基準を超える。

エ：誤り。数値基準が定められている。

総合解説：特定建設作業の騒音には大きさ・時間帯・日数等の規制がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0094 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

騒音・振動対策を施工計画へ反映する際、最も適切なものはどれか。

- ア．周辺用途を確認しない。
- イ．周辺住宅・学校・病院等の位置と利用時間を確認し、機械・工法・作業時間を調整する。
- ウ．夜間ほど騒音作業を集中させる。
- エ．苦情発生後だけ考える。

答え・解説 正答：イ

ア：対策優先度を判断できない。

イ：周辺環境条件によって影響度が変わる。

ウ：影響が増える場合がある。

エ：事前予防が重要。

総合解説：騒音・振動は発生源・伝搬経路・受音点を意識して対策する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0095 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：基礎

低騒音型建設機械を使用する主な効果はどれか。

- ア．騒音が完全に0になる。
- イ．振動も必ず0になる。
- ウ．発生源の騒音を低減し、周辺への影響を抑えやすくする。
- エ．時間帯規制が全て不要になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：完全無音にはならない。

イ：別の現象である。

ウ：発生源対策として有効である。

エ：法令等は別途確認する。

総合解説：低騒音機械・防音設備・時間調整等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0096 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

振動の大きい作業を住宅近接部で行う場合、最も適切な対策はどれか。

- ア．振動源を住宅側へ近づける。
- イ．地盤条件を確認しない。
- ウ．苦情を記録しない。
- エ．低振動工法への変更、機械選定、作業時間調整等を検討する。

答え・解説 正答：エ

ア：影響が増える。

イ：振動伝搬へ影響する。

ウ：改善に活かせない。

エ：発生源を低減し周辺への影響を抑える。

総合解説：振動は工法・機械・距離・地盤条件を総合して対策する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0097 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

防音パネルを設置する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．騒音源と受音点の位置関係を確認し、隙間や高さを考慮して配置する。
- イ．騒音源と反対側だけに設置する。
- ウ．大きな隙間を設ける。
- エ．倒壊防止を考えない。

答え・解説 正答：ア

ア：遮音効果は見通しや隙間の影響を受ける。

イ：効果が低い。

ウ：音が回り込みやすい。

エ：安全上不適切。

総合解説：防音設備は音響効果と仮設安全の両方を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0098 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

特定建設作業の騒音について、連続して作業できる期間の原則として正しいものはどれか。

- ア．連続30日まで無条件でよい。
- イ．連続6日を超えて行わない。
- ウ．期間制限はない。
- エ．必ず1日で終わる。

答え・解説 正答：イ

ア：基準と異なる。

イ：環境省基準では原則として連続6日を超えて行わない。

ウ：規定がある。

エ：そのような基準ではない。

総合解説：特定建設作業には大きさだけでなく日数制限もある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0099 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

施工途中で騒音苦情が発生した場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．苦情を無視する。
- イ．作業員だけを責める。
- ウ．発生源・時間帯・測定値・周辺状況を確認し、必要な追加対策を講じる。
- エ．騒音作業をさらに増やす。

答え・解説 正答：ウ

ア：問題が拡大する。
イ：原因分析にならない。
ウ：原因を特定して実効的な対策へつなげる。
エ：悪化する。
総合解説：苦情情報は環境管理の改善データとして扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0100 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：標準

騒音対策の効果確認として最も適切なものはどれか。

- ア．測定位置を毎回大きく変える。
- イ．数値を記録しない。
- ウ．体感だけで判断する。
- エ．対策前後の騒音状況を同等条件で測定・比較する。

答え・解説 正答：エ

ア：比較しにくい。
イ：効果を確認できない。
ウ：客観性が低い。
エ：改善量を客観的に評価できる。
総合解説：環境対策は実施後の効果確認まで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0101 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

騒音・振動の発生源対策として最も適切なものはどれか。

- ア．機械の適正整備、低騒音・低振動型機械の採用、工法変更を検討する。
- イ．防音壁だけに依存し機械異常を放置する。
- ウ．故障機械を使い続ける。
- エ．作業時間を延長する。

答え・解説 正答：ア

ア：発生源そのものを小さくすることが基本である。

イ：発生源対策が不足。

ウ：騒音増加の可能性。

エ：周辺影響が増える。

総合解説：設備・工法・維持管理を組み合わせることで発生量を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0102 4-4 環境管理 > 騒音・振動対策 | 難易度：応用

住宅・病院・学校が近接する現場で複数の騒音作業を予定している。最も適切な管理はどれか。

- ア．全て同時に最大出力で行う。
- イ．作業を時間的・空間的に分散し、周辺利用状況に合わせて高騒音作業を調整する。
- ウ．周辺施設の利用時間を無視する。
- エ．防音設備の配置を固定し見直さない。

答え・解説 正答：イ

ア：騒音が重なる。

イ：複数騒音源の同時稼働を避けることでピーク影響を抑えられる。

ウ：不適切。

エ：作業位置変化へ対応できない。

総合解説：複数作業では累積的な影響を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0103 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

乾燥した土工で粉じんが発生する場合の基本対策として適切なのはどれか。

- ア．乾燥を促進する。
- イ．車両速度を上げる。
- ウ．散水や覆い、走行速度抑制等により粉じんの飛散を抑える。
- エ．土砂を高所から落とす。

答え・解説 正答：ウ

ア：粉じんが増える。

イ：舞上がりが増える。

ウ：発生源と飛散経路を抑制する。

エ：粉じんが増える。

総合解説：粉じん対策は散水・覆い・清掃・速度管理等を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0104 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

土砂運搬車が公道へ粉じんや泥を持ち出す場合、最も適切な対策はどれか。

- ア．路面汚れを放置する。
- イ．荷台を過積載にする。
- ウ．清掃頻度を0にする。
- エ．洗車設備や路面清掃、荷台覆い等を適切に行う。

答え・解説 正答：エ

ア：交通・周辺環境に影響する。

イ：飛散しやすい。

ウ：不適切。

エ：工事区域外への汚染・飛散を防止する。

総合解説：搬出経路も環境管理の対象である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0105 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

濁水を直接河川へ排出することが問題となる主な理由はどれか。

- ア．水質や水生生物、下流利用へ影響を与える可能性があるため。
- イ．河川が必ず透明になるから。
- ウ．水量が必ず減るから。
- エ．騒音が増えるから。

答え・解説 正答：ア

ア：濁質・土砂流出は周辺水環境へ影響する。

イ：逆である。

ウ：主理由ではない。

エ：別問題。

総合解説：工事排水は水質・流量・排水先を確認して処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0106 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：基礎

濁水対策として沈砂池を設ける主な目的はどれか。

- ア．水を加熱する。
- イ．流速を落とし、土粒子を沈降させて濁質を減らす。
- ウ．騒音を吸収する。
- エ．粉じんを空中へ飛ばす。

答え・解説 正答：イ

ア：目的ではない。

イ：粒子沈降を利用した基本的な濁水処理である。

ウ：別機能。

エ：逆。

総合解説：沈砂・沈殿は濁水対策の代表的手法である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0107 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

大雨前の濁水対策として最も適切なものはどれか。

- ア．沈砂池を土砂で満杯にする。
- イ．排水路を塞ぐ。
- ウ．排水路・沈砂池の容量と詰まりを確認し、土砂流出箇所を養生する。
- エ．裸地を増やす。

答え・解説 正答：ウ

- ア：容量がなくなる。
 - イ：越流の原因。
 - ウ：豪雨時は短時間に流出量が増えるため事前確認が重要。
 - エ：土砂流出が増える。
- 総合解説：降雨予測に応じて仮排水・沈砂設備を維持管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0108 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

濁水処理設備の効果確認として適切なものはどれか。

- ア．見た目だけで永久に判断する。
- イ．設備があるだけで効果確認しない。
- ウ．排水先を確認しない。
- エ．処理前後の濁りや必要な水質項目を確認し、排水条件と比較する。

答え・解説 正答：エ

- ア：数値確認が必要な場合がある。
 - イ：性能不足を見逃す。
 - ウ：不適切。
 - エ：設備は実際の効果を確認して運転管理する。
- 総合解説：濁水処理は排水条件に適合しているか確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0109 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：標準

粉じん対策で散水を行う際の注意点として最も適切なのはどれか。

ア．過剰散水によるぬかるみ・濁水発生を避け、必要量を適切に散水する。

イ．多いほど必ず良い。

ウ．排水条件を確認しない。

エ．凍結時も同じ方法で行う。

答え・解説 正答：ア

ア：一つの対策が別の問題を生まないように調整する。

イ：過剰散水は問題を生む。

ウ：濁水発生に関係する。

エ：安全性を考える必要。

総合解説：粉じんと濁水の両方を考慮して散水量を調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0110 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

裸地法面から土砂流出が続く場合、最も適切な対策はどれか。

ア．流出を放置する。

イ．シート養生、仮排水、植生等で表面侵食を抑え、流出土砂を捕捉する。

ウ．排水を法面上部へ集中させる。

エ．濁水を直接道路へ流す。

答え・解説 正答：イ

ア：影響が拡大する。

イ：発生源対策と下流側対策を組み合わせる。

ウ：侵食が増える。

エ：不適切。

総合解説：侵食防止・集水・沈砂の多段対策が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0111 4-4 環境管理 > 粉じん・濁水 | 難易度：応用

粉じんと濁水が同時に問題となる現場で最も適切な管理はどれか。

- ア．粉じんだけ見て大量散水する。
- イ．濁水だけ見て乾燥状態を放置する。
- ウ．散水量、排水能力、路面状態を一体的に管理し、双方の影響を抑える。
- エ．測定・観察を行わない。

答え・解説 正答：ウ

ア：濁水を悪化させる場合がある。

イ：粉じんが増える。

ウ：局所対策だけでなく相互作用を考慮する。

エ：管理できない。

総合解説：環境管理は複数の影響を統合して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0112 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

建設工事から生じる産業廃棄物の排出事業者として原則該当するのはどれか。

- ア．常に発注者だけ。
- イ．必ず最下位の下請業者。
- ウ．収集運搬業者だけ。
- エ．発注者から直接工事を請け負う元請業者。

答え・解説 正答：エ

ア：原則ではない。

イ：原則ではない。

ウ：排出事業者とは異なる。

エ：環境省通知では原則として元請業者とされる。

総合解説：建設廃棄物は元請による適正管理が基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0113 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

産業廃棄物の処理を委託する際、最も適切なものはどれか。

- ア．許可範囲を確認した処理業者と必要な委託契約を締結する。
- イ．最安値なら無許可業者へ委託する。
- ウ．口頭だけで全て済ませる。
- エ．下請へ全責任を丸投げする。

答え・解説 正答：ア

ア：無許可業者への委託は認められない。

イ：不適切。

ウ：委託基準に従う必要。

エ：元請の管理責任がある。

総合解説：委託時は許可・契約・処理状況確認を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0114 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：基礎

マニフェストの主な目的はどれか。

- ア．工事工程を管理する。
- イ．委託した産業廃棄物の流れと処理終了を確認する。
- ウ．作業員の出勤を管理する。
- エ．材料強度を試験する。

答え・解説 正答：イ

ア：工程表とは異なる。

イ：排出事業者が適正処理を追跡確認するために用いる。

ウ：労務管理ではない。

エ：品質試験ではない。

総合解説：マニフェストは廃棄物処理のトレーサビリティを確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0115 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設廃棄物の分別排出を行う主な利点はどれか。

- ア．処理方法を分からなくする。
- イ．全て混合して埋立てるため。
- ウ．再資源化や適正処理を行いやすくし、混合廃棄物を減らせる。
- エ．マニフェストを不要にするため。

答え・解説 正答：ウ

ア：逆。

イ：分別と逆。

ウ：分別は再生利用と処理効率向上につながる。

エ：別の義務。

総合解説：発生抑制・分別・再使用・再生利用・適正処理の順で考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0116 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

建設副産物対策の基本方針として最も適切なのはどれか。

- ア．最初から全量最終処分する。
- イ．再利用可能物も混合廃棄する。
- ウ．発生量を把握しない。
- エ．まず発生抑制に努め、再使用・再生利用を検討し、残余を適正処理する。

答え・解説 正答：エ

ア：資源循環に反する。

イ：不適切。

ウ：管理できない。

エ：国交省要綱では発生抑制が基本方針の上位にある。

総合解説：建設副産物は資源循環と適正処理を一体で進める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0117 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

現場内で廃棄物を一時保管する場合、最も適切なものはどれか。

- ア．種類を識別し、飛散・流出・悪臭等を防止できるよう保管する。
- イ．一般資材と無表示で混在させる。
- ウ．風で飛散する状態にする。
- エ．排水路内へ保管する。

答え・解説 正答：ア

ア：保管中も周辺環境と誤混入を防ぐ必要がある。

イ：誤使用・誤処理につながる。

ウ：不適切。

エ：流出の危険。

総合解説：廃棄物保管は識別・区画・環境影響防止を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0118 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

委託した産業廃棄物について処理終了の確認ができない場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．確認せず処理済みとみなす。
- イ．委託先へ確認し、必要な追跡・法令上の措置を行う。
- ウ．マニフェスト記録を廃棄する。
- エ．下請へ責任を押し付けて終える。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。

イ：排出事業者は適正処理終了を確認する責任がある。

ウ：追跡できなくなる。

エ：元請管理責任がある。

総合解説：廃棄物処理は処理完了確認まで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0119 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：標準

撤去で発生するコンクリート塊等を管理する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．全て一般ごみに混ぜる。
- イ．処理先を確認せず搬出する。
- ウ．分別し、再資源化可能性と搬出先を確認して適正に処理する。
- エ．数量を記録しない。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。
イ：不適正処理のリスク。
ウ：建設副産物として資源循環を検討する。
エ：管理性が低下する。
総合解説：撤去材も発生段階から処理ルートを計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0120 4-4 環境管理 > 建設副産物・廃棄物 | 難易度：応用

建設副産物管理を工程計画と連携させる理由として最も適切なのはどれか。

- ア．工程とは完全に無関係だから。
- イ．廃棄物を長期滞留させるため。
- ウ．分別をやめるため。
- エ．分別スペース、搬出時期、処理先受入れを調整し、滞留や混載を防ぐため。

答え・解説 正答：エ

ア：関係する。
イ：逆。
ウ：不適切。
エ：廃棄物管理は施工工程と密接に関係する。
総合解説：副産物管理は施工計画・ヤード計画・搬出計画と一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0121 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

作業員配置を決める際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．作業内容、必要資格・技能、人数、経験、作業区域を踏まえて配置する。
- イ．資格に関係なく誰でも危険作業へ配置する。
- ウ．経験者を全員同じ作業へ集中する。
- エ．作業量を確認しない。

答え・解説 正答：ア

ア：適材適所と安全な人数構成が重要である。

イ：不適切。

ウ：他作業の安全性が低下する場合がある。

エ：適正配置できない。

総合解説：配置は技能・資格・作業負荷を総合して決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0122 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

資格・特別教育等が必要な作業へ人員を配置する場合、最も重要なのはどれか。

- ア．本人の申告だけで必ず十分とする。
- イ．作業前に必要資格・教育の有無を確認する。
- ウ．資格期限や対象業務を確認しない。
- エ．資格不要作業と同じ扱いにする。

答え・解説 正答：イ

ア：記録確認が望ましい。

イ：無資格・未教育者の配置を防ぐ。

ウ：適用外の可能性。

エ：不適切。

総合解説：資格要件は配置計画の前提条件である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0123 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

新人作業員を危険作業へ配置する場合、最も適切なのはどれか。

- ア．初日から単独で危険作業へ配置する。
- イ．説明なしで任せる。
- ウ．教育を行い、経験者の指導・監督下で段階的に従事させる。
- エ．不明点を質問させない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：危険。
- イ：不適切。
- ウ：経験不足による危険認識の低さを補う必要がある。
- エ：事故につながる。

総合解説：新人配置では教育と監督を強化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0124 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

複数作業が同時に進む現場で作業員配置を調整する際、最も適切なのはどれか。

- ア．全作業へ均等人数だけ割り振る。
- イ．監督者を1か所へ固定し他を無管理にする。
- ウ．有資格者を複数作業へ同時配置したことにする。
- エ．危険度と重要作業を考慮し、必要な監督者・有資格者を確保する。

答え・解説 正答：エ

- ア：危険度を反映しない。
 - イ：安全確保できない場合がある。
 - ウ：実態と合わない。
 - エ：人数だけでなく役割・技能のバランスが重要である。
- 総合解説：配置は作業リスクと必要技能に合わせて最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0125 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：基礎

長時間連続作業を避けるための配置として最も適切なのはどれか。

- ア．交替要員を確保し、適切な休憩を組み込む。
- イ．休憩を削除する。
- ウ．同一作業員へ全時間集中させる。
- エ．体調不良者を優先して長時間配置する。

答え・解説 正答：ア

ア：疲労蓄積は事故・健康障害につながる。

イ：疲労が増す。

ウ：負荷が偏る。

エ：不適切。

総合解説：作業負荷と休憩を考慮した配置が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0126 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

高温環境下で作業員を配置する際、最も適切なのはどれか。

- ア．全員同じ連続作業時間に固定する。
- イ．作業強度、暑熱順化、体調、休憩場所、交替要員を考慮する。
- ウ．暑熱順化を考慮しない。
- エ．休憩場所を設けない。

答え・解説 正答：イ

ア：体調差等を無視。

イ：個人差と環境条件を踏まえて負荷を管理する。

ウ：重要な要因。

エ：不適切。

総合解説：暑熱環境では人員配置自体も熱中症対策となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0127 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

作業員の体調不良が判明した場合の配置判断として最も適切なのはどれか。

ア．本人が希望すれば必ず危険作業へ戻す。

イ．症状を記録せず無視する。

ウ．症状と作業内容を確認し、必要に応じ作業変更・休養・受診等を行う。

エ．他人に隠して作業させる。

答え・解説 正答：ウ

ア：適切な判断が必要。

イ：健康管理できない。

ウ：無理な就業継続は事故・重症化につながる。

エ：危険。

総合解説：健康状態に応じて配置を柔軟に変更する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0128 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

夜間作業の人員配置として最も適切なのはどれか。

ア．日中と全く同じ条件でよい。

イ．監督者を配置しない。

ウ．照明を減らして作業人数を増やす。

エ．視認性・疲労・緊急対応を考慮して必要な監督・照明・交替体制を確保する。

答え・解説 正答：エ

ア：夜間特有リスクを無視。

イ：危険。

ウ：安全性低下。

エ：夜間は日中と異なるリスクがある。

総合解説：時間帯によるリスク変化を配置へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0129 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

作業員不足が発生した場合の対応として最も適切なのはどれか。

- ア．必要な安全・資格要件を満たせない作業は無理に進めず、工程や配置を見直す。
- イ．一人で複数の同時作業を担当させる。
- ウ．無資格者を代替配置する。
- エ．監督者を外して人数を補う。

答え・解説 正答：ア

ア：人数不足を理由に安全要件を省略してはいけない。
イ：実行不能・危険。
ウ：不適切。
エ：安全性低下。
総合解説：人員不足時も安全要件を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0130 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：標準

技能の異なる作業員をチーム編成する利点として最も適切なのはどれか。

- ア．全員同じ技能だけに限定する。
- イ．経験者が技能を補完し、作業品質と安全確認を高められる。
- ウ．新人だけで危険作業を構成する。
- エ．役割を決めない。

答え・解説 正答：イ

ア：補完性が低い場合がある。
イ：チーム内の技能バランスは現場対応力を高める。
ウ：監督不足。
エ：混乱する。
総合解説：チーム編成では技能・経験・役割を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0131 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

複数現場を兼任する監督者の配置で最も注意すべきことはどれか。

- ア．名前だけ配置すればよい。
- イ．危険作業中に不在でも問題ない。
- ウ．必要な監督が実際に行えるかを確認し、無理な兼任を避ける。
- エ．連絡手段を持たない。

答え・解説 正答：ウ

ア：実態が必要。

イ：不適切。

ウ：名目上の配置では安全管理を実施できない。

エ：緊急対応できない。

総合解説：管理者配置は実効性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0132 4-5 労務・健康 > 作業員配置 | 難易度：応用

工程短縮のため作業員を大量投入する場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．人数は多いほど必ず安全で速い。
- イ．指揮者は増員不要である。
- ウ．作業区域を増やさず無制限に投入する。
- エ．作業空間、指揮系統、干渉、技能構成を確認し、過密化しない範囲で配置する。

答え・解説 正答：エ

ア：過密化で危険・非効率になる。

イ：管理負荷増大を考慮する。

ウ：干渉が増える。

エ：人員増が必ず生産性向上につながるとは限らない。

総合解説：人員投入は安全・生産性・指揮能力のバランスで決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0133 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

改正安衛則第612条の2で熱中症対策義務の対象となる作業の目安として正しいものはどれか。

ア．WBGT28 以上または気温31 以上で、継続1時間以上または1日4時間を超えることが見込まれる作業。

イ．気温20 以上なら全作業。

ウ．WBGT40 以上だけ。

エ．作業時間に関係なく気温だけで決まる。

答え・解説 正答：ア

ア：厚労省の現行資料で示される対象作業の目安である。

イ：基準と異なる。

ウ：基準と異なる。

エ：作業時間条件もある。

総合解説：熱中症重篤化防止措置には対象作業条件が明確に示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0134 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症対策として2025年6月1日から義務付けられた内容の一つはどれか。

ア．報告先を決めない。

イ．熱中症のおそれがある作業者を発見した際の報告体制をあらかじめ整備し周知する。

ウ．本人だけで判断させる。

エ．事故後に初めて連絡網を作る。

答え・解説 正答：イ

ア：義務と逆。

イ：改正安衛則で報告体制の整備と周知が義務化された。

ウ：組織的対応が必要。

エ：事前整備が必要。

総合解説：熱中症対策は早期発見のための報告体制を整える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0135 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

熱中症のおそれがある作業者を発見した場合の手順として最も適切なのはどれか。

- ア．作業を続けさせる。
- イ．一人で休ませて連絡しない。
- ウ．作業から離脱させ、身体を冷却し、必要に応じ医師の診察・処置や緊急搬送を行う。
- エ．水分だけ渡して必ず現場復帰させる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：重症化の危険。
- イ：状態悪化を見逃す。
- ウ：重篤化防止のため早期対応が必要である。
- エ：症状評価が必要。

総合解説：初期症状を放置せず、離脱・冷却・受診等を迅速に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0136 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

熱中症対策の手順に含めるべき内容はどれか。

- ア．工事原価だけ。
- イ．材料納期だけ。
- ウ．作業者の私生活だけ。
- エ．緊急連絡網、緊急搬送先、必要な措置と実施手順。

答え・解説 正答：エ

- ア：対象外。
- イ：対象外。
- ウ：必要な措置手順ではない。
- エ：改正安衛則で事前作成と周知が求められている。

総合解説：緊急時に迷わず行動できる具体的な手順を整備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0137 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：基礎

WBGT値を活用する主な目的はどれか。

- ア．暑熱環境のリスクを評価し、休憩・作業時間・対策の判断に用いる。
- イ．騒音を測るため。
- ウ．作業員数を自動決定するため。
- エ．材料強度を測るため。

答え・解説 正答：ア

ア：気温だけでなく湿度や放射熱等も考慮する指標である。

イ：別指標。

ウ：直接決定するものではない。

エ：別用途。

総合解説：WBGTを用いて暑熱負荷を客観的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0138 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

暑熱順化が不十分な作業員への対応として最も適切なものはどれか。

- ア．初日から最大負荷にする。
- イ．作業負荷を段階的に上げ、休憩を十分確保する。
- ウ．水分制限する。
- エ．体調確認を行わない。

答え・解説 正答：イ

ア：危険。

イ：急な暑熱作業は熱中症リスクを高める。

ウ：不適切。

エ：リスクを見逃す。

総合解説：暑熱順化の程度を配置と作業負荷へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0139 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

熱中症予防の水分・塩分補給として最も適切な考え方はどれか。

- ア．水分を極力控える。
- イ．アルコール飲料で補う。
- ウ．作業環境や発汗状況に応じて定期的な水分・塩分補給を促す。
- エ．長時間補給しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：脱水を招く。
イ：不適切。
ウ：喉の渇きだけに頼らず予防的補給を行う。
エ：危険。
総合解説：休憩・冷却・水分塩分補給を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0140 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：標準

熱中症対策を朝礼で周知する際、最も重要な内容はどれか。

- ア．気温情報だけ読み上げる。
- イ．報告先を伏せる。
- ウ．手順を管理者だけが知る。
- エ．当日の暑熱状況、症状、報告先、休憩・冷却場所、緊急時手順を共有する。

答え・解説 正答：エ

- ア：不十分。
イ：義務の趣旨に反する。
ウ：関係作業者への周知が必要。
エ：周知は実際に行動できる具体性が重要である。
総合解説：熱中症対策は現場全員が報告・対応手順を理解することが重要。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0141 4-5 労務・健康 > 熱中症・健康管理 | 難易度：応用

高温日に作業員が頭痛・ふらつきを訴えているが本人は作業継続を希望している。最も適切な対応はどれか。

- ア．直ちに作業から離脱させ、冷却・状態確認を行い、必要に応じ受診・搬送する。
- イ．本人が希望するため継続させる。
- ウ．一人で車内に残す。
- エ．症状を記録せず帰宅させる。

答え・解説 正答：ア

ア：本人希望より重篤化防止を優先する。

イ：危険。

ウ：状態悪化を見逃す。

エ：適切な評価が必要。

総合解説：熱中症疑いでは早期対応と見守りが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0142 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

労働災害発生時の初動として最も適切なのはどれか。

- ア．原因調査を救護より先に行う。
- イ．負傷者の救護と二次災害防止を最優先し、必要な連絡を行う。
- ウ．現場をそのまま動かし続ける。
- エ．事故を隠す。

答え・解説 正答：イ

ア：人命優先。

イ：救護者自身が被災しないよう安全確保も必要である。

ウ：二次災害の危険。

エ：不適切。

総合解説：災害時は救護・二次災害防止・連絡を迅速に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0143 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：基礎

重大事故現場で二次災害を防ぐため最も適切な措置はどれか。

- ア．多数の人を無秩序に近づける。
- イ．機械を動かし続ける。
- ウ．危険区域を立入禁止とし、電源・機械等の危険源を安全に停止する。
- エ．危険源を確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：危険。
 - イ：二次災害の可能性。
 - ウ：事故直後は潜在危険が残っている可能性がある。
 - エ：不適切。
- 総合解説：救助・調査前に安全な活動環境を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0144 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

緊急連絡網を事前整備する主な目的はどれか。

- ア．通常業務を増やすため。
- イ．事故情報を隠すため。
- ウ．個人連絡を禁止するため。
- エ．事故時に救急・管理者・関係機関へ迅速に連絡するため。

答え・解説 正答：エ

- ア：目的ではない。
 - イ：逆。
 - ウ：目的ではない。
 - エ：連絡先を探す時間を減らす。
- 総合解説：緊急連絡先は最新状態で共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0145 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

地震発生時の現場対応として最も適切なものはどれか。

- ア．作業を安全に停止し、退避後に足場・掘削・クレーン等の異常を確認してから再開する。
- イ．揺れの直後に無点検で再開する。
- ウ．吊荷を吊ったまま避難する。
- エ．掘削部へすぐ入る。

答え・解説 正答：ア

- ア：地震後は仮設物や地盤状態が変化している可能性がある。
- イ：危険。
- ウ：危険。
- エ：崩壊リスク。

総合解説：地震後は再開前点検と安全確認を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0146 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

豪雨により現場が冠水し始めた場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．水中で電気設備を操作する。
- イ．人員を安全区域へ退避させ、電気・重機・掘削等の二次リスクを確認する。
- ウ．掘削部へ人を入れて確認する。
- エ．退避経路を閉鎖する。

答え・解説 正答：イ

- ア：感電危険。
- イ：冠水は感電・崩壊・流出等の複合災害につながる。
- ウ：崩壊危険。
- エ：危険。

総合解説：自然災害時は人命優先で複合リスクを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0147 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

火災発生時の対応として最も適切なものはどれか。

ア．一人で無理に消火を続ける。

イ．通報しない。

ウ．周囲へ知らせ、可能な範囲で初期消火しつつ避難・消防通報を行う。

エ．可燃物を火元へ集める。

答え・解説 正答：ウ

ア：逃げ遅れの危険。

イ：被害拡大。

ウ：初期対応と避難判断を迅速に行う。

エ：危険。

総合解説：初期消火は安全に可能な範囲で行い、避難を遅らせない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0148 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：標準

災害発生後の現場保存として最も適切な考え方はどれか。

ア．全て片付けてから報告する。

イ．写真・記録を削除する。

ウ．救護より現場保存を優先する。

エ．救護・二次災害防止に必要な措置を除き、原因調査に必要な状況を可能な範囲で保全する。

答え・解説 正答：エ

ア：原因情報を失う。

イ：不適切。

ウ：人命が最優先。

エ：事故原因究明には現場状況の記録が重要である。

総合解説：人命救助を優先しつつ必要な事故記録を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0149 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

事故後の再発防止として最も適切なものはどれか。

- ア．直接原因・背景要因を分析し、手順・設備・教育・管理体制を見直す。
- イ．被災者だけを責める。
- ウ．事故記録を破棄する。
- エ．同じ手順を無変更で続ける。

答え・解説 正答：ア

ア：個人の注意だけに帰すと再発防止が弱い。

イ：根本原因分析にならない。

ウ：学習できない。

エ：再発のおそれ。

総合解説：災害調査は再発防止へ結び付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20

0150 4-5 労務・健康 > 災害時対応 | 難易度：応用

複数の負傷者が発生した災害で最も適切な対応はどれか。

- ア．全員を一度に無秩序に移動させる。
- イ．現場安全を確保し、救急要請とともに負傷程度を把握して優先的に救護する。
- ウ．軽傷者だけ先に対応する。
- エ．救急要請を遅らせる。

答え・解説 正答：イ

ア：二次傷害の危険。

イ：限られた資源で多数傷病者へ対応する必要がある。

ウ：重症者優先の判断が必要。

エ：不適切。

総合解説：多数傷病者時は安全確保・通報・優先度判断を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-08-20